

## 第2章 うるま市の歴史文化遺産の概要と特徴

### 1. 指定等文化財の概要と特徴

#### (1) 指定等の文化財の状況

本市における国・県・市の指定・登録の文化財は、国指定が4件、県指定が7件、市指定が46件、国登録が1件、県選択文化財が1件の合計59件である。市内に所在する文化財の指定・登録の状況は、以下のとおりである。なお、各文化財の詳細については資料編に記載する。

表1 うるま市内の指定・登録の状況（令和6年3月現在）

| 類型      |            | 国<br>指<br>定<br>等 | 県<br>指<br>定<br>・<br>選<br>択 | 市<br>指<br>定 | 国<br>登<br>録 | 合<br>計 |
|---------|------------|------------------|----------------------------|-------------|-------------|--------|
| 有形文化財   | 建造物        | 0                | 0                          | 4           | 0           | 4      |
|         | 絵画         | 0                | 0                          | 0           | 0           | 0      |
|         | 彫刻         | 0                | 0                          | 0           | 0           | 0      |
|         | 工芸品        | 0                | 3                          | 3           | 0           | 6      |
|         | 書跡・典籍      | 0                | 0                          | 0           | 0           | 0      |
|         | 古文書        | 0                | 1                          | 0           | 0           | 1      |
|         | 考古資料       | 0                | 0                          | 0           | 0           | 0      |
|         | 歴史資料       | 0                | 0                          | 0           | 0           | 0      |
| 無形文化財   |            | 0                | 0                          | 0           | —           | 0      |
| 民俗文化財   | 有形の民俗文化財   | 0                | 0                          | 11          | 0           | 11     |
|         | 無形の民俗文化財   | 0                | ※ 1                        | 10          | —           | 11     |
| 記念物     | 遺跡         | 4                | 2                          | 16          | 1           | 23     |
|         | 名勝地        | 0                | 0                          | 1           | 0           | 1      |
|         | 動物、植物、地質鉱物 | 0                | 1                          | 1           | 0           | 2      |
| 文化的景観   |            | 0                | —                          | —           | —           | 0      |
| 伝統的建造物群 |            | 0                | —                          | —           | —           | 0      |
| 合計      |            | 4                | 8                          | 46          | 1           | 59     |

0：該当なし、—：制度なし、※選択文化財

## (2) 世界文化遺産の概要

### ア. 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の概要

琉球列島は日本列島の南端に位置する。14世紀中頃には北山、中山、南山の国が分立していたが、15世紀前半にこれらを統一して琉球国が成立した。中国・朝鮮・日本・東南アジア諸国との広域の交易を経済的な基盤とし、当時の日本の文化とは異なった国際色豊かな独特の文化が形成された。その特色を如実に反映している歴史文化遺産がグスクである（注）。

勝連城、今帰仁城、座喜味城、中城城は、いずれも三国鼎立期から琉球国成立期にかけて築かれた城であり、首里城は琉球王がその居所と統治機関を設置するために築いたものである。これらの城壁は主としてサンゴ礁で形成された琉球石灰岩により造営されており、曲面を多用した琉球独自の特色を備えている。さらに、王室関係の遺跡では園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽などが残り、王国の文化をうかがうことができる。それらの構成資産をもって「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、2000（平成12）年12月2日に世界文化遺産に登録された。

（注）沖縄では城をグスク、グシクと当てることがある。しかし、琉球列島の暮らしのなかではグスク、グシクを聖域な場所のひとつとなっている御嶽（うたき）や風葬地を指す場合もある。詳しくは『神と村』（梶社、1990年）を参照のこと。



世界遺産 勝連城跡

## イ. 勝連城跡の概要

勝連城を居城にしていた阿麻和利（あまわり）は、琉球国の王権の安定化への道筋のなか、最後まで琉球国王に抵抗した有力な按司（あじ）であった。築城は13～14世紀にさかのぼり、眺望のきく北から西、さらに南側の険阻な断崖を呈した地形を利用して築城されている。城主の阿麻和利は、1458年に中城城の護佐丸（ごさまる）を滅ぼした後、王権奪取を目指して国王の居城である首里城を攻めるが、逆に滅ぼされた。

城内には建物の礎石、固有信仰の「火の神」を祀った聖域のほかに、最上段の郭一本丸には玉ノミウヂ御嶽と称される円柱状に加工された靈石があり、信仰の対象となっている。

勝連城跡は、2000（平成12）年12月2日に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産のひとつとして世界文化遺産に登録された。

## 2. 未指定文化財の概要と特徴

本市における未指定文化財は、2024（令和6）年3月31日現在、計3,270件を把握している。市内に所在する未指定文化財の状況は、以下のとおりである。なお、各未指定文化財の詳細は資料編に記載する。



伊計島の豊年祭



伊計島の夕涼み台



宮城島の15歳祝い



棟方志功の作品

表2 うるま市内の未指定の状況（令和5年7月現在）

| 類型      |            | 件数    |
|---------|------------|-------|
| 有形文化財   | 建造物        | 197   |
|         | 絵画         | 1     |
|         | 彫刻         | 1     |
|         | 工芸品        | 20    |
|         | 書跡・典籍      | 0     |
|         | 古文書        | 7     |
|         | 考古資料       | 12    |
|         | 歴史資料       | 110   |
| 無形文化財   |            | 106   |
| 民俗文化財   | 有形の民俗文化財   | 767   |
|         | 無形の民俗文化財   | 1,245 |
| 記念物     | 遺跡         | 269   |
|         | 名勝地        | 36    |
|         | 動物、植物、地質鉱物 | 49    |
| 文化的景観   |            | 12    |
| 伝統的建造物群 |            | 4     |
| その他     |            | 434   |
| 合計      |            | 3,270 |

### 3. 文化財の類型ごとの概要

#### (1) 建造物

指定されている文化財は、市指定文化財の「嘉手苅観音堂（かでかるかんのんどう）」、宮城島の「ヤンガー」、与那城饒辺の「ガーラ矼（ばし）」、浜比嘉島の「吉本家」である。嘉手苅観音堂は家屋本体がコンクリートであり、内装が木造となっている。吉本家の石垣とヤンガー、ガーラ矼は琉球石灰岩を用いた建造物である。

未指定の建造物は 197 件あり、主に島しょ地域の島々に残されている木造家屋が多い。とくに浜比嘉島の比嘉集落と伊計島には赤瓦葺きの木造の建造物が点在している。石川集落と石川東恩納集落のフクギ林に囲まれた赤瓦の木造建築、田場集落や具志川集落、塩屋集落、宮里集落、屋慶名集落等にも赤瓦やセメント瓦の木造建築がみられる。特徴的な建造物としては、戦後沖縄に流行したアメリカ住宅 63 棟が石川地区の石川曙の一帯にある。

#### (2) 美術工芸品

本市には、絵画と彫刻の指定文化財はない。しかし、未指定文化財の棟方志功の「水墨画」、武者小路実篤の「なかよし地蔵（銅板）」の 2 件が石川地区にある。

工芸品の指定文化財では、主に県指定の「三線翁長開鐘」、「三線久場春殿型」、「三線真壁型」や市指定の「三線真壁（大型）」、「三線平仲知念型（大型）」、「三線鴨口与那型（中型）」となっている。未指定の文化財は 20 件あり、とくに平安座島の仲田家に伝わる琉球王ゆかりの漆器類は近世琉球の伝来品である。

書跡・典籍の指定文化財はなく、未指定文化財も今のところ確認されていない。

古文書は県指定の「勝連間切南風原村文書」があり、その古文書は近世琉球の地割制度の在り方を残している。未指定文化財の古文書は勝連南風原の「儀保家記録」や「南風原ノロ殿内島袋家文書」、「武姓家譜正統」、勝連平安名の「古文書ノロクモイ家記録」、勝連平敷屋の「野呂内家古文書」、勝連浜の「浜村親川家古文書」等の 7 件がある。

考古資料の指定文化財はないが、未指定文化財は市内で発見された遺跡が多いことから出土品が数多くみられる。勝連城跡で発見された東南アジアの陶磁器類や骨製品、平敷屋トウバル遺跡で出土した「線刻画石柱」、平敷屋古島遺跡の武具、シヌグ堂遺跡や高嶺遺跡等の骨製品、津堅貝塚や宇堅貝塚等の土器や獸骨、貝製品等の 12 件は、沖縄の先史時代の精神文化や暮らしを考える上でも興味深い。

歴史資料の指定文化財はない。未指定文化財では、平敷屋朝敏等が残した琉歌の歌碑や高潮の環境問題と農地の拡大を兼ねた護岸工事の記念碑が塩屋集落、勝連南風原集落、与那城屋慶名集落、与那城桃原集落に残されている。また、土地の境界線を示すハル石も現存している。歴史資料は今のところ 110 件確認できている。

#### (3) 無形文化財

現在のところ、無形文化財の指定はない。未指定文化財は、主に琉球舞踊、琉球古典音楽、

空手等の保持者がおり、各集落に継承されている伝統芸能等が 106 件ある。また、各集落で残されている伝統芸能は特徴的なものがある。そのなかでも石川集落の蝶ぼたんや具志川集落の松竹梅、与那城桃原集落の桃原南嶽節、勝連比嘉集落の高砂は、地域らしさを保持しながら独自に発展している。伊計島の豊年祭と浜比嘉島のウフアシビで踊られる村芝居は伝統芸能だけでなく、民俗芸能も参加する伝統行事としてとても魅力がある。

#### （4）有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、市の指定文化財の全体の 23.9%を占めている。特徴的な指定文化財は、葬式で使用する「東恩納平良家葬祭具」や鍛冶屋の「伊波金細工鍛冶道具」、織物の「伊波メンサー織道具一式」がある。その他には「南風原の村獅子」、「伊波ヌール墓」、「地頭代火の神」、「シリミチュー」、「宮城御殿」、「与佐次川」、「中の御嶽」、「上江洲ウフガー」があり、地域住民の信仰の場や暮らしの場として利用されている。

未指定文化財では、各集落の闘牛場や湧き水のカ一、聖域の場所にある祠、塩屋集落と与那城桃原集落の塩田に関する生産用具、闘牛関連資料、漁業用具、造船技術に関する生産用具などの 767 件がある。

#### （5）無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、県選択文化財の「津堅島の唐踊り」がある。市指定の全体の 21.7%を占めている。それは「伊波メンサー織」をはじめ、民俗芸能の「天願獅子舞」、「田場ティンベー」、「南風原の獅子舞」、「平安名のウムイ・クエーナ」、「平敷屋エイサー」、「宮城ウシデーク」、「平安座のサングワチャ一」があり、その他には「マーラン船の建造技術」、「うるま市の闘牛」もある。1,246 件の未指定文化財では、沖縄民謡界の巨匠であった登川誠仁が作詞・作曲した石川東恩納集落の東恩納エイサーや与那城屋慶名集落の屋慶名エイサー、与那城集落の与那城エイサー、勝連比嘉集落の比嘉エイサー等が特徴的な民俗芸能である。未指定文化財のなかでも海に関連する伝統行事は、津堅島のアミドウシとマータンコ一、勝連半島のシヌグ行事とハーリー行事、シヌジベントウの漁、郷土の食文化等がある。

#### （6）遺跡（史跡）

本市の遺跡（史跡）は、指定文化財の全体の 34.7%を占め一番多い。国指定では、縄文時代を代表する「伊波貝塚」、「仲原遺跡」があり、グスク時代を代表とする「勝連城跡」、「安慶名城跡」がある。県指定では「伊波城跡」と「平安名貝塚」である。市指定は「平敷屋タキノ一」、「アマミチューの墓」、「ヤマトウンチュウ墓」、「ワイトウイ」、「平安座西グスク」、「新川・クボウグスク周辺の陣地壕群」、「兼箇段ジョーミーチャ一墓」、「田場ガ一」、「大田坂」、「沖縄諮詢会堂跡」、「東恩納博物館跡」、「石川部落事務所」、「藪地洞穴遺跡」、「宮城島のヒータチ（火立て）跡」、「具志川グスク」、「具志川グスクの壕」がある。

269 件の未指定文化財は、先史時代に関連する貝塚や遺跡が多く占めるものの、グスク時

代のグスクや墓地群と防空壕は特色があり、弔いの精神文化と戦跡といううるまらしい歴史文化遺産がそろっている。

### (7) 名勝地

指定文化財は、市指定の伊計島の「犬名河」のみである。その場所は金武湾を望められ、水汲みの苦労と地形の困難などが琉歌にも残されている。

36 件の未指定文化財では、沖縄島最大の「干潟」があり、そこは海中道路を中心に幅約 10km 広がっている。その他には『おもうさうし』でも歌われている「照間ばま（浜）」、藪地島の南東の岬や石川海浜公園の白浜海岸、伊計島の東海岸、宮城島のデーン浜、ンダカチナ浜、ウクノ浜、トウンナハ浜、津堅島のアギ浜、スギヌ浜、トマリ浜、浜比嘉島のクバ島、赤道集落から兼箇段集落や宇堅集落まで広がるカルスト残丘等があげられる。

### (8) 動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

指定文化財では、国指定天然記念物の「オカヤドカリ」、「ムラサキオカヤドカリ」と県指定天然記念物の「チャーン」、「クロイワトカゲモドキ」がある。とくにチャーンは琉球王府時代から伝わっている士族階級の愛玩動物のひとつとされており、鳴き声を重宝し、琉球の歴史文化を伝えている。

動物の未指定文化財では、哺乳類のワタセジネズミ（環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）やオリイオオコウモリ（沖縄県レッドデータブック準絶滅危惧NT）、鳥類のサシバ（環境省レッドリスト絶滅危惧II類VU）、爬虫類のオキナワキノボリトカゲ（環境省レッドリスト絶滅危惧II類VU）、昆虫類のオキナワスジゲンゴロウ（環境省レッドリスト絶滅危惧II類VU）、鱗翅類のタイワンツバメシジミ（環境省レッドリスト絶滅危惧IA類CR）、マイマイ類のオオカサマイマイ（環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）、水棲甲殻類のヒメアシハラガニモドキ、陸生甲殻類のオカトビムシ等の 10 件がある。また、兼箇段集落と平敷屋集落、内間集落、浜比嘉島に生息する両生類のシリケンイモリ（環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）も特徴的である。

植物の指定文化財は、津堅島の「クボウグスクの植物群落」がある。その未指定文化財は 20 件あり、浜比嘉島のカルスト残丘に生育する琉球石灰岩の植物群落、与那城照間の海浜植物群落、具志川照間と与那城照間の水田に生育する水棲植物群落等が特徴的である。

地質鉱物の指定文化財はない。19 件の未指定文化財は石川市民の森公園の千枚岩、宇堅ビーチの栗石石灰岩、勝連南風原集落の国頭レキ層、川田集落の泥岩層、平安名集落のワイトウイの化石層、与那城饒辺集落の石灰岩と島尻マージ、勝連平敷屋集落のトラバーチン（琉球石灰岩）、伊計島の細粒凝灰岩やダイヤステム（牧港石灰岩）、宮城島の不整合（琉球石灰岩と新里層）や知念砂層、新里層（泥岩層と凝灰岩層）、凝灰岩のノジュール層、凝灰岩層（島尻層群・新里層）、赤褐色凝灰岩（島尻層群・新里層）、平安座島の露頭（新里層・知念砂層・琉球石灰岩）、浜比嘉島の露頭（新里層・琉球石灰岩・ビーチロック）、津堅島の

不整合（新里層の凝灰岩と牧港石灰岩）や牧港石灰岩（琉球石灰岩）等があげられる。

### （9）文化的景観

選定された文化的景観はない。その未指定文化財は12件があり、勝連南風原集落と浜比嘉島の浜集落、比嘉集落（兼久も含む）、伊計集落が挙げられる。これらはうるま市景観地区に指定されている。その他、具志川照間集落と与那城照間集落は蘭草の生産地として沖縄県下有数の作付面積と収穫高があり、それらも文化的景観として拾い上げた。勝連半島から平安座島に広がる海中道路の干潟も本市の特徴的な文化的景観である。

### （10）伝統的建造物群

選定された伝統的建造物群はない。4件の未指定文化財は、浜比嘉島の勝連比嘉集落の赤瓦の木造の建造物やセメント瓦の木造の建造物や琉球石灰岩の石垣が挙げられる。また、伊計島の与那城伊計集落や宮城島の与那城宮城集落や与那城上原集落も赤瓦の木造の建造物やセメント瓦の木造の建造物群がある。

### （11）その他

その他の未指定文化財は434件ある。田んぼ、塩田、港、地名、クムイ（ため池）跡、闘牛場跡、坂等に関する地名や各集落に残されている方言、生産工場や企業等に残されている技術伝承などがあげられる。



田場のティンベー



嘉手効觀音堂



勝連間切南風原村文書



カンカラ三線